

## 7. 防災上の課題

---

## 7.1 地区で想定される災害

### 1) 火災

- ・過去の災害履歴を見ても火災被害が多く、特に江戸、明治期には大規模火災が頻発している。
- ・江戸、明治期は、茅葺の建築物が多かったことや防災設備の不足などが、大規模火災となった一つの要因として考えられる。
- ・昭和以降は、大規模火災はなく、火災の発生数も少なくなっているものの、建物を延焼する被害は生じている。
- ・人命・財産に大きな損害を与え、地区の景観にも大きな影響を及ぼす火災は、今後も発生することが予想されるため、火災への対策が必要である。

### 2) 風水害

- ・明治時代から昭和 40 年代までは大規模な水害被害が発生している。  
(江戸時代の水害に関する史料が未発見のため、江戸時代の状況は不明)
- ・靱井川の河川改修により大規模水害は、減少しているものの、水路の容量を越す台風による大雨や集中豪雨の際などは、水路から雨水がオーバーフローして道路冠水し、敷地内に水が入ることがある。
- ・度重なる道路改修によって、道路高が敷地高より高くなり、雨水が道路から敷地内に流入するケースも見られる。
- ・台風などの強風により屋根瓦が飛ぶ、漆喰が剥がれる、塀が倒れるなどの被害が起きている。
- ・大規模な風水害は近年発生していないものの、集中豪雨が頻繁に発生する状況や、近隣市で大規模な災害が発生していることから、風水害への対策が必要である。

### 3) 地震

- ・過去には地震による大規模な被害は発生していないものの、近くには御所谷断層や山崎断層があり、これらの断層が動けば、当地区も大きな被害が発生することが想定される。
- ・平成 7 年(1995)の阪神淡路大震災時は、家屋が大きく揺れて屋根瓦や葺土がずれ、雨漏りするようになり、家屋の壁にひびが入ったり、塀が倒れるなどといった被害が生じている。
- ・当地区周辺で大規模な地震が発生した場合、現状では人命・財産への大きな被害、家屋・塀・電柱等の倒壊、それらに伴う道路閉塞、火災の発生、電気・水道などのインフラ不通、公設消防による消火・救助活動の困難などが予想される。これらのことを念頭に置き、地震発生に伴う大規模災害への対策が必要である。

### 4) その他

- ・雪害は、近年降雪量が減り、大きな被害はないが、屋根につもった雪が一気に落ちて隣の屋根を傷めたりするなどといった被害は出ている。
- ・雷害は、近年市内では落雷被害が多発しており、重要文化財の自動火災報知器が落雷により故障するケースが 3 件発生している。
- ・平成 3 年に本地区に隣接する本明谷奥山で、5.8ha を焼損する林野火災が発生している。

## 7.2 地域社会上の課題

### ① 居住者の高齢化

本地区では、高齢世帯が多く、高齢化率も高くなっている。

高齢者であっても火災等を早期発見、早期通報できる対策や、高齢者でも簡単にできる初期消火の手法など、防災上での配慮が求められる。また、若年者層の減少による防災や災害救援活動などの担い手不足も課題となる。

### ② 高齢単身居住者や要援護者への支援

本地区では、居住者の高齢化とあわせ、高齢単身居住者や要援護者も多数生活している。

高齢単身居住者や要援護者は、避難活動や初期消火を行う上で弱者となりやすく、災害時には自力避難が困難となる可能性も高い。

災害時の周辺住民の助け合いが行えるような、地域での支え合いや、日常からのコミュニケーションの育成も求められる。

### ③ 空き家の増加

本地区では、多数の空き家が確認できる。空き家では火気利用がないため出火の可能性は低いですが、不審火の発生時には、発見が遅れる危険性が高い。また、災害時には、腐朽が進む木造建物も多く、被害が拡大する可能性も指摘できる。

### ④ 昼間人口の減少

地区外で勤務する会社員等の増加に伴い、地区内の昼間人口の減少が進んでいる。日中の地区内には、高齢者や女性の割合が高く、防災や災害救援活動などの担い手が不足するという状況にある。

### ⑤ 防災訓練の未実施

福住防災ワークショップにおいて、避難や初期消火の訓練の必要性が確認されているものの、近年地区内において、定期的な防災訓練は開催されていない。

住民の防災意識及び地域の防災力を高める予防活動や啓発活動、コミュニティづくりが求められる。

## 7.3 地域防災上の課題

### 1) 防災設備の整備状況

#### ① 公設消火栓の充実と維持管理

福住から西野々まで公設消火栓が整備されている。家屋が密集する福住は公設消火栓も密に配置されるが、家屋が分散する川原から西野々にかけては少なくなっている。

公設消火栓は上水接続のため、地震などの大規模災害時には使用不可能な状況も想定される。また、ホース格納箱が併設されていないものや、格納されるホースの数もばらつきがある。

#### ② 防火水槽の充実と維持管理

防火水槽は上水に頼らない水源であるため、大規模災害時にも有効に機能する。福住下並びに安口西には密閉型の防火水槽が設置され、その他の地区は水路を活用した開放型の防火水槽が整備されている。

しかしながら、開放型防火水槽の維持管理状態は良好とはいえず、一定期間放置された状態のものも見られる。土砂の堆積による有効水量の不足も危惧され、定期的な清掃などの適切な維持管理が求められる。

#### ③ 河川や水路等の取水環境の維持管理

本地区には水無川や川原川、南谷川などの河川や、多数の水路が分布する。

河川（川原川）には非常時の水源となる取水ピットが設けられるが、土砂が堆積しており、活用が難しい状態にある。また、河川や水路に植物が繁茂し、豪雨時に効率的に水を流せない場合も考えられる。

このように、河川や水路の定期的な清掃などの適切な維持管理が求められる。

#### ④ 住民や地域で備える防災設備

地区内の伝統的建造物に対して、手厚い防災設備の整備はされておらず、個人で消火器や火災警報器等を購入し、設置している状況である。

#### ⑤ 消火器等の充実

通りに面して消火器等の防災設備を設けている地区はない。高齢者や女性にも使いやすい初期消火のための消火設備や、水バケツ等の充実が望まれる。

### 2) 周辺環境

#### ① 火災の早期発見・初期消火・早期通報体制の確立

地区内、地区周辺に消防団詰所や消防関連倉庫（福住、川原、安口、西野々）があり、通報後の消防車両の到着は早いと想定される。火災の早期発見、初期消火の体制、早期通報体制などが重要となる。

#### ② 狭隘道路

幅員が4mを割り込む狭隘な道路が地区全域に分布し、避難上あるいは消火活動上支障となることも考えられる。しかしながら、消防車両は、地区内の大部分に進入することができ、進入できない場所については、近くに駐車し、ホースを延長することで、消火活動にあたることになっている。

### ③ 電柱電線

地区全域にわたり、電柱・電線類が張り巡らされている。これらは景観上の阻害要因としてはもちろん、震災時には電柱の倒壊などにより、消火や救出活動にも影響を及ぼす可能性がある。

### ④ あぜ焼

本地区は周囲に多くの農地が広がっており、除草や害虫駆除などの維持管理のため、あぜ焼が行われることがある。しかしながら、風向きや、乾燥している日が続いているなどの天候により、火災へのつながってしまう危険もある。

地区内には木造の住宅、さらには茅葺の住宅も多く分布するため、あぜ焼を行う場合には、十分な注意と体制が求められる。

### ⑤ 土砂災害対策の再確認

本地区の南側斜面地の一部は、急傾斜地崩壊危険区域並びに急傾斜地被害想定区域に指定されている。また、同斜面地の谷筋は、土石流危険渓流等に指定されている。擁壁や砂防堰堤の設置など、対策工事は既に実施されているものの、近年、集中豪雨により、近隣市で大規模な災害が生じていることもあり、定期的な状況確認や適切な維持管理の実施が求められる。

## 7.4 伝統的建造物に関する課題

### ① 密集家屋による延焼の危険性及び避難の困難性

地区内の建物の多くが木造建物であり、特に福住（旧宿場町）を中心に、木造建物が軒を接して密集している。火災時には延焼の危険性が高いことに加え、震災時には、家屋倒壊に伴い、道路を分断したり、二方向への避難路をふさぐ可能性も指摘できる。

### ② 茅葺屋根への防火対策

本地区には茅葺屋根（板金による安全屋根を含む）の建物が多く分布する。本地区は法 22 条地域に指定されておらず、屋根を不燃材料で葺く必要はない。また、保存修理事業において、安全屋根から茅葺屋根に戻す復元的修理も実施されている。

しかしながら、これら茅葺建物に対し、特別な防火対策は施されておらず、火災に対して脆弱な状況にあることから、早急な対策の検討が求められる。

### ③ 耐震性能の低下

地区内の建物の多くは、江戸後期から明治期に建設され、長い年月が経過している。これら建物は、構造材が不朽している場合が多く、シロアリの被害も重なることもあり、地震時に倒壊する可能性も考えられる。

また、道路に面して多くの開口部を設けた建物が多く、奥行き方向に対して開口方向の壁量が不足している状態にある。

### ④ 屋内電気配線の老朽化

古くからの建物では、がいしによる屋内電気配線が、現役で使用されている場合がある。しかしながら、屋内電力配線の老朽化に伴い、漏電の危険性も考えられる。なお、天井内の電気配線など、雨漏りによる雨水の浸入が重なると、その危険性も高まる。

### ⑤ 屋根瓦の老朽化

ずれた瓦や葺土と縁が切れた瓦など、老朽化した屋根瓦が、地震時や暴風時に落下する恐れがある。

### ⑥ 家屋の防火性能

土壁は火災に強く、延焼防止にも有効である。しかしながら、付属屋や増築部など、非土壁で構成された建物も多い。これら非土壁部の防火性能の向上が望まれる。